

加齢性難聴者の補聴器購入助成事業に係る調査結果・分析について

1. 目的

補聴器に関する状況やニーズを調査し、制度構築に向けた検討を行うため。

2. 実施概要

(1)調査期間： 令和6年5月14日～6月13日

(2)調査対象及び調査方法：

ア 市内の耳鼻咽喉科（補聴器相談医） 3か所

・調査方法：聴き取り調査、6項目

イ 市内の補聴器販売店 5か所

・調査方法：聴き取り調査、8項目

ウ 市内の老人クラブ等 回答数 157人/配布数 180枚（回収率 87%）

①恵庭・恵み野・島松地区 各1クラブ 計3クラブ

②シニア体力測定会

・調査方法：当日参加者へのアンケート 9項目

3. 主な調査結果及び分析

調査項目	調査結果
①補聴器と認知症・ 介護予防の関連性	【補聴器相談医】 ・耳の聞こえの悪さに起因して認知症となることは考えられる。 ・補聴器利用者が増えれば認知症予防に繋がると思う。 【補聴器販売店】 ・会話でのコミュニケーションが取れず家族が連れてくるケースがほとんど。 【老人クラブ等】 ・補聴器の使用で「家族や友人等と会話を楽しめるようになった」、「外出の機会が増え意欲的になった」というコミュニケーションの機会が増えたという意見が多かった。

調査項目	調査結果
②補聴器の購入	【補聴器相談医】 ・受診し購入する者は20～40名程度/年 1医院 - そのうち 8～9 割は障害者手帳の助成対象とならない。 【補聴器販売店】 ・相談件数は 60～70 件程度/年 1店舗 - 購入件数は 20～40 件程度/年 1店舗 ・主な購入価格帯は 20～40 万円(片耳)であり、高額で購入を諦める者がいる。 ・補聴器購入する主な層は、「障害者手帳の助成対象とならない中等度難聴者」が多い。 【老人クラブ等】 ・補聴器の主な購入価格帯は 10～50 万円未満。(片耳・両耳含む) ・補聴器購入助成があれば、購入のきっかけになる意見が多数ある。

分析	・補聴器を装着することで、「認知症・介護予防」と外出やコミュニケーションの増加による「生活の質の向上」に繋がる可能性がある。 ・補聴器の購入を検討する者の内、「障害者手帳の助成対象とならない中等度難聴者が多い」「高額であるから購入を諦めた者がいる」「助成があれば購入のきっかけとなる」との意見が多い。
----	---

4. まとめ

調査等の結果において、補聴器助成を望む声が多いと分析している。

次年度中の実施に向けた制度設計を進めていく。

以 上